８．図書館および図書・電子媒体等

（大学全体）

（図書、図書館の整備）

Ａ群　図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他教育研究上必要な資料の体系的整備とその量的整備の適切性　（表 41）

Ａ群　図書館施設の規模、機器・備品の整備状況とその適切性、有効性　（表 42）

Ａ群　学生閲覧室の座席数、開館時間、図書館ネットワークの整備等、図書館利用者に対する利用上の配慮の状況とその有効性、適切性　（表 43）

Ａ群　図書館の地域への開放の状況

（学術情報へのアクセス）

Ｂ群　学術情報の処理・提供システムの整備状況、国内外の他大学との協力の状況

（大学院全体）

Ｂ群　学術資料の記録・保管のための配慮の適切性

Ｂ群　国内外の他の大学院・大学との図書等の学術情報・資料の相互利用のための条件整備とその利用関係の適切性

Ｃ群　コンテンツ（文書、画像、データベース等のネットワークを流通する情報資源）やアプリケーション・ソフト（個々の応用目的をもったコンピュータソフトウェア）の大学・大学院間の効率的な相互利用を図るための各種データベースのナビゲーション機能の充実度

Ｃ群　資料の保存スペースの狭隘化に伴う集中文献管理センター（例えば、保存図書館など）の整備状況や電子化の状況

１　図書・学術雑誌及び電子媒体資料の整備

【2006 年度の評価にもとづく課題・改善方策】

図書館資料費予算は、ここ数年１億２千万円台で推移している。2006 年度は１億２千９百万円であったが、2007 年度では 10%ほどの削減が求められている。図書選定に関しては講義に密接にかかわる図書をより厳選し提供しなくてはならない。図書館では多くの教員と連携しての選書が必要と考える。このため、より機能的な選書が行えるように選書委員の役割についての検討を行い、図書選定方法を改善することが課題である。

外国雑誌の価格高騰に対応するため、購入タイトルを厳選すると同時に、電子ジャーナルの契約経費についてもＰＵＬＣ等の電子ジャーナルコンソーシアムに参加し、コストパフォーマンスの優れた契約を実現することが課題である。

ＤＶＤ等の視聴覚資料は､教養的要素よりも語学学習や講義と連動したタイトルの購入を目指す。

【大学基準協会による 2007 年度大学評価結果】

Ⅱ　総　評

三　長所の伸張と問題点の改善に向けての取り組み

１０　図書・電子媒体等

「開かれた大学図書館」として 1978（昭和 53）年の現図書館開館時より地域開放を行っている。「利用しやすい図書館」を基本理念に学部・研究科の増設、情報媒体の多様化に対応しながら「札幌学院大学図書館収集管理規程」に沿って計画的な選書を実施してきた。図書館資料費予算も年間およそ１億３千万円を計上しており、蔵書冊数、学生１人あたりの蔵書冊数、学術雑誌所蔵タイトル数等で、私立大学の各平均値を上回っている（文部科学省平成 17 年度「学術情報基盤実態調査」結果）。

【2008 年度に実施する改善措置・方策】

① 図書館選書方針に基づき教育・研究を支援する図書・雑誌・電子媒体資料・視聴覚資料を計画的に収集し提供する。特に講義及びレポート指定図書の迅速な提供に努める。

② 学術雑誌の価格高騰に対応するためアンケートを実施し購入対象雑誌の見直しを図る。

③ コストパフォーマンスの高い電子ジャーナルの導入について調査を行う。

④ NII-CiNii により本学紀要･論集の電子化公開を行うとともに機関リポジトリの構築を目指す。

⑤ 学内刊行物の収集・整備を行う。

２　施設・設備の整備

【2006 年度の評価にもとづく課題・改善方策】

書庫狭隘対策としてのＣ書庫設置が認められたため、図書館全体の資料再配置計画と資料移動作

業計画を立案し、使い勝手が良く、収納効率も良い資料配置を実現しなくてはならない。

図書館システムも、2008 年度に更新を行い、最新バージョンのＬＩＭＥＤＩＯを導入して利用者サービス及び業務改善を図りたい。

Ｚ39.50 やＭｅｔａＬｉｂ／ＳＦＸなどの情報アクセスツールについては、これらのプロトコルや使用環境が整備されている他大学と連携し横断検索ができる図書館数を増やすことと利用者へのＰＲが課題である。

【大学基準協会による 2007 年度大学評価結果】
Ⅱ　総　評
三　長所の伸張と問題点の改善に向けての取り組み
１０　図書・電子媒体等
学術情報へのアクセス、図書館ネットワーク、情報インフラ環境の整備も着実に進めている。

【2008 年度に実施する改善措置・方策】

① 学生用パソコンを 50 台増設し情報環境を整備した第４閲覧室・グループ学習室の利用促進を図る。特にグループ学習室については、学生が共同で図書館資料とインターネット情報を使い議論しながら学習を進めるライブラリー・コモンズ的な利用を目指す。

② 2008年9月に図書館システム及び図書館ホームページサーバーのリプレイスを行い利用者サービスの向上と業務改善を行う。

3　利用者サービス

【2006 年度の評価にもとづく課題・改善方策】

図書貸出冊数及び入館者数の減少に対して、より詳しい分析を行い、効果的な図書館のＰＲを展開すると同時に、講義と連携した図書館活動の強化が課題である。

【大学基準協会による 2007 年度大学評価結果】
Ⅱ　総　評
三　長所の伸張と問題点の改善に向けての取り組み
１０　図書・電子媒体等
他大学の図書館とは提携を結び相互に協力しながら利用者の利便を図っている。

【2008 年度に実施する改善措置・方策】

① 新図書館システムのポータル機能を活用し非来館型サービスの充実を図る。

② 業務委託を活用して現行の開館日数及び開館時間を維持する。

③ 北海道地区私立大学図書館協議会及び北海道地区大学図書館相互利用サービス等を通じて他大学図書館との連携を強化し相互協力サービスの充実を図る。

④ 蔵書点検を定期的に実施し、配架整備を行うと同時に分かりやすい資料配置に努める。

⑤ 社会連携センターへの雑誌配送及び貸出図書の配送を行う。

4　図書館広報

【2006 年度の評価にもとづく課題・改善方策】

図書館ホームページについては、担当職員のスキルアップを行いより見やすく、使いやすい構成としたい。

図書館報「書林」は、編集・企画を工夫し、マンネリ化を脱することが課題である。

年次報告書は、掲載事項を標準化し経年変化などがわかりやすい編集としたい。また、紙媒体での配布のみならず、図書館ホームページへの掲載についても検討したい。

【2008 年度に実施する改善措置・方策】

① 図書館利用案内の刷新を行い利用促進を図る。

② 図書館ホームページのリニューアルを行い、図書館広報の充実を図る。

③ 図書館報『書林』、SGU Library News 等、図書館情報の発信を紙媒体と図書館ホームページから行う。

④ 定期的に企画展示を実施し図書館資料の紹介を行う。

⑤ 2007 年度版「図書館年次報告書」の発行を行う。

5 利用者教育

【2006 年度の評価にもとづく課題・改善方策】

新入生ガイダンス、情報リテラシーガイダンス、ゼミナールガイダンスのより効果的なガイダンスプログラムの開発と職員のプレゼンテーションスキルの向上が必要である。ガイダンスプログラムについては、教員と連携し具体化を図りたいと考える。プレゼンテーションスキルに関しては、今までは個人の努力に負うところが多かったが、図書課として研修・研究に取り組みができるような体制をとり、職能集団としてスキルアップを行い、より効果的にガイダンスを運営することが課題である。

また、ガイダンス対象となっている学年が 1 年生と 3・4 年生であり、2 年生が抜けている状況にある。これは、カリキュラム編成で 2 年生を対象とするクラスが一部の学部でしか編成されていないため、ガイダンスを実施することが難しい現状にあるからである。このためクラス編成にかかわらず、希望者を募り適時ガイダンスを行う方法等、2 年生に対する情報リテラシーガイダンスの具体化が課題である。

【2008 年度に実施する改善措置・方策】

① 学年進行に対応した図書館ガイダンス（新入生ガイダンス・情報リテラシーガイダンス・ゼミガイダンス）を効果的に展開し教育・学習支援を行う。

(1) 新入生ガイダンス

a １年基礎ゼミを対象に基本的な図書館利用スキルの説明を行い館内ツアーを実施する。

(2) 情報リテラシーガイダンス

a 全学共通科目「論述・作文」と連携し前期・後期に実施

b 後期には新図書館システムの機能を活用し学生の情報収集スキルの高度化を目指す。

c ６月と 10 月にゼミ単位などでの受講希望者を対象に個別プログラムを作成して実施する。

(3) ゼミ・ガイダンス

a 専門ゼミを対象に案内を行い、応募ゼミの希望に応じたプログラムを作成して実施する。

② 文献複写に係る著作権制限について注意喚起を行う。

③ 館内利用マナーの向上に努める。

④ 定期的に督促(学生情報ポータル・督促状郵送・電話連絡等)を行い、延滞図書の削減に努める。

6 図書館の地域開放

【2006 年度の評価にもとづく課題・改善方策】

生涯学習拠点としての本学図書館のＰＲをさらに積極的に展開し、地域社会への貢献を行って行くことが課題である。

【大学基準協会による 2007 年度大学評価結果】
Ⅱ　総　評
三　長所の伸張と問題点の改善に向けての取り組み
１０　図書・電子媒体等
「開かれた大学図書館」として 1978（昭和 53）年の現図書館開館時より地域開放を行っている。他大学の図書館とは提携を結び相互に協力しながら利用者の利便を図っている。

【2008 年度に実施する改善措置・方策】
本学図書館地域開放について機会あるごとにＰＲを行い利用促進に努める。

7　これからの札幌学院大学図書館＜重点課題＞

（1）　図書館職員の専門性向上

【2006 年度の評価と課題・改善方策】
2003 年度から 2006 年度にかけて図書館職員は 5 名が異動の対象となった。内 2 名は図書館司書資格を有していた。また、2006 年度末には司書有資格者 2 名が退職することになっており、専任職員で司書資格を有するものは 3 名になる。2006 年 3 月に出された「学術情報基盤の今後の在り方について（報告）Ⅱ．学術情報基盤としての大学図書館等の今後の整備のあり方について」の、3.5（ア）「高度の専門性・国際性を持った大学図書館員の確保・育成方策」では、国際性豊かな高度の専門知識を持つ図書館員の存在が重要であること、電子化資料を高度に組織し提供する技術、導入・契約にかかわる法律知識を備えた人材が必要であるとされている。本学図書館でも、司書有資格者の確保はもちろんのこと、高度の専門性や国際性、電子資料への対応能力を持った職員の確保と養成が急務であるため、関係部局に対応を求めていかなくてはならない。

【2008 年度に実施する改善措置・方策】
図書館職員の専門性向上を目指し図書課課内の研修体制を確立する。

（2）　図書館予算の効率的運用

【2006 年度の評価と課題・改善方策】
2007 年度予算編成方針では、各部門とも 10%以上の予算削減が求められており、図書館予算、特に図書費・資料費の削減は必至である。図書館としては、効率的な予算運用が求められ、本学の教育・研究をサポートするための利用者ニーズに合った蔵書構築を行わなくてはならない。特に講義と連携した図書・資料の選定が行えるよう図書委員・選書委員・一般教員と図書館職員の協力体制の確立が急務である。

（3）　書庫狭隘化対策

【2006 年度の評価と課題・改善方策】
書庫狭隘対策の一環として、2007 年度予算要求において 2 号館 103 教室をＣ書庫に転用する計画を立案しＣ書庫の設置が認められた。教室床面積の関係で約 6 万冊収納の集密書架の導入を予定しているが、年間の増加冊数を勘案すると 4～5 年間で一杯になる。抜本的な狭隘対策は、新図書館の建設、又は、大規模な増築によって実現されると思われる。

（4）　新たな図書館コンセプトの構築

【2006 年度の評価と課題・改善方策】
2002 年 8 月に新たな図書館建築の構想を検討するため、図書課内に職員による新館構想検討委員会を設置した。2002 年 9 月には、明治大学中央図書館、国際基督教大学オスマー図書館、駿河台大学図書館などの先進図書館の見学を行い、2003 年 9 月には、新図書館の規模及び基本コンセプトに

ついて「新図書館構想について（報告）」を事務局長宛に提出した。2004 年 1 月 16 日付けで常任理事会キャンパス整備小委員会から「キャンパス計画についてーキャンパス整備計画に関する報告ー」が出され、およその新図書館の規模と建設時期が明示された。その後、図書館を含む新キャンパス建設資金として第 2 号基本金組入が開始されることになった。新館構想検討委員会では、理事会からの報告に基づき、検討を深めることとし、2004 年 9 月には神田外語大学メディア教育センター、国士舘大学附属図書館鶴川図書館、横浜国立大学附属図書館の見学を行った。2005 年度も引き続き検討を深め、特に自動化書庫の導入について情報収集と重点的な検討を行った。しかし 2006 年度予算編成方針において、第 2 号基本金の減額が決定したため、建設時期が大幅に遅れることになった。図書館では、引き続き最先端の図書館施設や設備の情報、利用者サービスの改善に繋がる情報、最新の図書館システム及び情報インフラ等の情報を収集し、新図書館コンセプトの創出を行い、新図書館建設の実現に向けて努力しなくてはならない。